

石田総務大臣と有識者との意見交換会（第2回）議事要旨

1. 日時

平成30年11月28日（水） 11:30～13:30

2. 場所

総務省大臣室

3. 出席者

石田総務大臣、
小林会長、佐藤顧問、神野学長、富山CEO、増田教授、松山顧問、村井教授

4. 有識者からの主な意見

- 将来についての肯定的なメッセージ・ビジョンを示すべき。
- 一極集中や社会保障制度などのリスクとともに、成長のエンジンとして重要なイノベーションやグローバル化にも将来の不確実性を高めている面がある。成長とともに持続可能性、生活の質の向上を目指すべき。
- 本社機能を地方に移転するのはハードルが高い。市場と人材に引っ張られる。
- 若い人にとって魅力的な要素が全国に分散していることが大事。
- ヨーロッパにはその地域の生活様式を支える産業があり、局地的な市場圏がある。生活様式を守っているかどうか、一極集中が起こるかどうかの違い。
- G型（グローバル経済圏）産業を拡大するとともに、L型（ローカル経済圏）産業については、まだ伸びしろがあるため、労働生産性（≒賃金）の向上を目指すべき。あわせて、G型とL型のシナジーを追求することが重要。
- ローカル経済圏では生産性＝量的拡大ではない。生産性をどのように質に転化していくかが大事。
- 地域の基幹的なサービスを維持していくためには、独占の弊害が生まれないようにしつつ、サービス維持を義務づけて、ホールディングスの形態で病院がバス事業を運営する等のやり方を本格的に考えなければならない。
- 人手不足の現在、最低賃金を上げて、ついて来られない企業には退出を促すことも必要ではないか。
- AI人材が必要と言われるが、特別な才能が求められているわけではなく、基本的なリテラシーがあれば大丈夫。商業高校や農業高校、高専の役割は非常に大きい。